

# さるしま junior

第18号（冬一その3）

令和4年2月2日発行

園長 小菅 哲也

## ほんとうに大切なものは目立たない



私は、毎日相模湾をのぞむ西地区から東京湾に面した横須賀市の中心街へ自動車通っています。この通勤も12年目を迎えました。この時期、道路にもさまざまな変化が見られます。昨日までデコボコだったところに、真新しいアスファルトが敷き詰められていたり、消えかかった路面標示に代わって純白の太いラインが浮かび上がっていたり…。開通したばかりの道路のように生まれ変わった場所に差しかかると、なぜか身が引き締まります。

さて、この工事はいつ行われているのでしょうか。道路に面したスペースに、子どもたちに人気のショベルカーやロードローラー、巨大な照明器具や発電機が、所狭しと並んでいるのを見かけることがあります。こうした重機を使って、自動車の往来の少なくなった夜間に工事が行われています。凍てつくような寒さの中、作業員の皆さんは白い息を吐きながら、スコップやつるはしを振るっています。「照明がある」と言っても昼間の明るさには到底及びません。目的地をめざすドライバーのことを思いながら、道具を握る手に力を込めていることでしょう。

私たちの安全性や快適性、利便性は、こうしたふだんあまり目にする事のない、夜間のハードなお仕事によって守られています。道路工事と同じように私たちの日常の生活でも、陽の目を浴びない活動や注目されにくい作業にこそ、私たちの心根（こころね）をつくる、大切なものが潜んでいるように思われてなりません。



## 「寒稽古（かんげいこ）」に思いを馳せる



「寒稽古（かんげいこ）」という言葉をご存知ですか。「寒稽古」と言うと、今日は、武道をはじめとしたスポーツや芸能などで「冬に行われる練習」をさす言葉として用いられています。ところが、本来は、「大寒から節分までの期間の早朝に行う、唄（うた）や踊りの練習」をさしていました。今よりずっと気温が

低く、便利な暖房器具はおろか照明もない江戸時代。まだ町が眠りについている朝4時に



起きて、真っ暗な中で大声を張り上げて歌ったり、身を切るような冷気の中で体をいっぱい使って舞ったりすることがいかにつらいものであったかは想像に難くありません。

当時は、この厳しい環境の中で稽古（練習）を積むことが、その1年の成長や活躍につながるものと信じられていました。

プロ野球やJリーグなどが、ちょうどこの時期、キャンプを行うのにも相通じるものがあるかもしれません。また、味噌や日本酒もこの時期に仕込まれたもの（＝寒仕込み）が、たいへんおいしいとされています。

まもなく訪れる春。この春は、諏訪幼稚園の子どもたちにとっても（教職員にとっても）節目の季節となります。4月には、新しい環境での新たな挑戦が待っています。それを充実したものにしてい  
くためには、この時期の備えや過ごし方がたいせつなことは間違いのないところです。



## 諏訪幼稚園のオリジナル寒稽古（かんげいこ）



諏訪幼稚園の朝の活動は、9時35分から始まります。最初は、「ラジオ体操第一」で体を目覚めさせます。続いて、「諏訪幼オリジナルダンス」。運動会で代々披露してきたダンスや人気のダンスなど10数種類の中から、その日の当番さんがひとつ選びます。「当番の園児の個性や思いが表れる」楽しいメニューです。水分補給をした後、「マラソン」に入ります。白い息を弾ませながら、音楽に乗って園庭いっぱいには輪ができます。

友達や職員に負けまいと闘志を燃やす子、友達とペアになって走る子、音楽に耳を傾けながら走る子など、走り方はさまざまです。担任の指示で、スキップやサイドステップ、バックステップが入ります。一息ついた後は「忍者修行」。バケツを跳び越えたり、スキー



競技のようなスラローム走をしたり、その身のこなしから子どもたちの成長を感じるひと時です。これで終わりかと思いきや、「校舎3階までの階段の昇り降り」が加わることもあります。始まりは2往復でしたが、1月28日には、何と8往復！にもなりました。



ここまでの活動時間は40分。人数が少ないこともあって、順番すぐに回ってきます。運動の量は小学校の体育の授業に近づいています。まさしく「諏訪幼オリジナル寒稽古」と呼ぶにふさわしい活動です。

最近、運動に取り組む10名の表情には、“小学生の風格”が漂ってきました。「寒稽古」で手に入れた体力と自信を生かして、新たなステージでも爽やかに活躍してくれることを願わずにはられません。

